

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和2年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	建設部都市・まちづくり課(安曇野建設事務所)
指定管理者	(一財)公園財団

1 施設名等

施設名	長野県烏川溪谷緑地	住所	長野県安曇野市堀金烏川26
		電話	0263-73-0203
		ホームページ	http://karasugawa.com/

2 施設の概要

設置年月	昭和・平成 14年4月	根拠条例等	長野県都市公園条例
設置目的	住民福祉の増進に寄与することを目的として、貴重な自然環境の保護・保全に配慮し、一般住民に自然とのふれあい、自然体験・学習、レクリエーション、文化活動などの場を提供するため。 この目的達成のため、行政と市民との協働による緑地の管理・活動を実施。		
施設内容	水辺エリア:環境管理棟、トイレ、駐車場、園路、溪流園地、あづまや、展望台、ピオトープロ 森林エリア:森の家、あづまや、森林トイレ、駐車場、園路 開園面積:49.67ha		
利用料金	無料		
開所日	・管理事務所開所日:4/1～12/28、1/4～3/31(閉所日は12/29～1/3) ・トイレ4箇所冬季閉鎖(12/1～3/31)		
開所時間	・管理事務所開所時間:8時30分から17時15分まで		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期間	管理形態	管理受託者又は指定管理者等
～平成21年度	直営	-
平成22年度～24年度	指定管理	(一財)公園財団
平成25年度～29年度	指定管理	(一財)公園財団
平成30年度～令和4年度	指定管理	(一財)公園財団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	(一財)公園財団	指定期間	平成30年4月1日 ～ 令和5年3月31日(5年間)
選定方法	公募(応募者数:1)		

5 指定管理料(決算ベース)

令和2年度(A)	令和元年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
31,575千円	31,288千円	287千円	
	増減理由	消費税率の引き上げによる	

6 指定管理者が行う業務

<ul style="list-style-type: none"> ・本緑地(備品等を含む)の維持管理、利活用に関する業務及びこれに付帯する業務 ・「烏川溪谷緑地市民会議」の運営、活動等に関する業務及びこれに付帯する業務

7 利用実績等

(1)利用実績【指標:利用者数・利用件数・稼働率】

(単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度(A)	2,180	4,040	2,120	1,870	15,600	3,120	1,600	1,390	530	460	760	700	34,370
令和元年度(B)	2,760	4,600	2,740	4,060	13,480	2,370	1,040	1,370	390	480	530	1,010	34,830
(A)/(B)	79.0	87.8	77.4	46.1	115.7	131.6	153.8	101.5	135.9	95.8	143.4	69.3	98.7
増減要因等	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 前年都市緑化信州フェア(サブ会場)が開催されたものが今年度は通常開園であること、新型コロナウイルス感染症の影響で利用は伸びず、6月集中する学校利用が同コロナにより秋に延期されたことから、減となった。(前年比 82.6%) ・7月～9月 7月は梅雨末期の強雨が続き昨年度の利用の半分以下となったが、8月と9月は新型コロナウイルス感染症の影響で周辺の水遊び施設が閉鎖した反動と、密にならない屋外利用が支持されたことから、増となった。特に本8月期は過去最高の利用者となった。(前年度比 103.4%) ・10月～12月 密にならない屋外利用の傾向が続き利用が伸びた。また、春に予定されていた団体利用が秋に行われたことから、利用者が増となった。(前年比 125.7%) ・1月～3月 1・2月は暖冬傾向により利用があったが、3月は新型コロナウイルス感染症の県内拡大や天候不順のため、減となった。(前年度比 95.0%) ・天候不順や新型コロナウイルス感染症の影響で利用が伸び悩んだが、密にならないほっとできる空間として認知が高まり、昨年度並みの利用者数を確保できた。 ・ホームページの他公式SNS(フェイスブック・ツイッター)を本年度から本格的に運用し、安曇野市観光協会への加盟など広報宣伝を強化したことも、利用者数を維持につながった。 												

(2)利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度(A)													0
令和元年度(B)													0
(A)/(B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
増減要因等													

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有 <input checked="" type="radio"/> 無	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和2年度(A):359日	令和2年度(A):8:30~17:15	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
令和元年度(B):359日	令和元年度(B):8:30~17:15		

(5) サービス向上のため実施した内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンター機能の強化として、レクチャールームの剥製等標本の追加制作及び本緑地の旬情報、標本解説、園内ガイドを実施した。 ・スタッフによる案内ガイドを求めない利用者のためにセルフガイドを作成・配置した。(紅葉、冬芽、木の実、鳥の羽等) ・安曇野市内小学校の宿泊学習に伴う環境学習や近隣宿泊施設を利用する学校団体への環境学習対応を実施した。下見実施時に希望する学習内容及び実施方法を確認し、団体ごとのニーズに応じたきめ細やかな利用対応を行った。荒天時は雨天プログラム等時間短縮プログラム提供を行った。 ・繁忙期における駐車場の円滑利用のため、駐車場誘導案内員を配置し整理を行った。 ・日々の園内巡視の実施により、園内情報、自然情報の収集、把握に努め、レクチャールーム及び園内でのインタープリテーション実施に活用した。 ・環境管理事務所配置スタッフは、「サービス接客検定」の資格を取得したり、「救急救命講習」、「安全衛生法令関係講習」を受けるなど資質向上に努めた。 ・新たに、SNS(フェイスブック・ツイッター)を本格的に運用し、イベントや自然情報、ツキノワグマの出没状況や烏川の水位情報等安全管理についてもリアルタイムで発信した。 ・新たに、安曇野市観光協会に加盟し、取材等呼び込んだ。信州環境カレッジやSDGsプロジェクト等長野県が推進する事業に積極的に連携

(6) その他実施した取組内容

<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況に応じてトイレ清掃の頻度を上げたほか、トイレ美化として生花を飾り清潔かつ快適な環境維持に努めた。 ・見どころの一つとなっている『カタクリ』生息地の生態学的調査を、財団本部の資金を活用し、信州大学農学部(大窪教授)の協力得て2年目の継続となった。貴重な生態空間を形成していることが示唆された。 ・新たに、プラスチック削減プロジェクト等長野県が実施する事業に参加した。安曇野市が実施する「里山再生プロジェクト」や「安曇野市民環境ネットワーク」等に参加し、地域貢献や連携に努めた

(7) 利用者の主な声及びその対応状況

<p>○利用者へのアンケート調査結果でのご意見・要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お土産を販売してほしい。 ・今はコロナで登山ができずにいますが、また、山へ行きたくなりました。 ・お盆のため駐車場が混んでいた。 ・もっと市外の人にアピールしてほしいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機収益を活用しノベルティグッズを作製した。 ・HPやSNSを通じて自然情報の発信に努めた。 ・繁忙期には警備員を増員し、駐車場誘導や案内を行った。 ・安曇野市観光協会に加盟し、県外の広報宣伝に努めた。フェイスブック、ツイッターを本格的に運用し、情報発信を行った。
<p>○行事開催について以下の要望、ご意見があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からすの学校は、専門家の話が分かりやすく良かった。 ・身近な生き物の知らないことがわかり大変良かった。 ・普段気にも留めなかった世界の面白さに触れられて楽しかった。 ・資料があればより良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の研究成果や自然情報を専門家を招請する「からすの学校」等のイベントを通じて紹介していく。 ・烏川渓谷に生息するツキノワグマやヤマネ等野生生物をテーマとして引き続き実施する。 ・レクチャールームにおいて『本物』が実感できるよう、収集した生き物の標本化を継続的にすすめる。 ・イベント等の内容を資料化し、イベント以外にも配布した。(烏川渓谷緑地の地衣類、カエデのセルフガイド等)
<p>○今後取り上げてほしい題材、内容について</p> <p>テーマ等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物(水生昆虫、野鳥、、ニホンザルの生態、生き物の繋がり、夜の観察会、野生動物の生態、夜行性生物等) ・植物(きのこ、花、森の樹木、季節の植物観察、外来植物問題、樹木、コケ) ・その他(冬の散策、地層・地形・地質、北アルプスの地質構造、自然観察、クラフト、木の実の活用、リースづくり) ・写真教室(風景撮影、動植物、スマホカメラ) ・ウォーキング、トレッキング、園路以外の探検 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な行事開催へのご意見、要望を頂戴し、次年度以降の開催に向けて実施内容の検討を行った。 ・本年度は、コケテラリウムづくりイベント、竹の水鉄砲づくり、ヤマネ学習会等を実施した。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・烏川渓谷の貴重な自然を守り、動植物の保全・育成活動を推進するため、植物管理は緑地スタッフ1人1人のスキル向上に向け、経験豊富なスタッフが同行の上、各作業を実施した。除去すべき植物、保全活用すべき植物、動物・昆虫等が利用する植物などきめ細やかに対応しながら維持管理を実施した。新たに自然資源マップを作成し、情報共有に努めた。 ・園内利用においては、利用者への適切な案内、利用状況を踏まえた園内清掃の徹底により、安全、快適で清潔な利用環境の維持に努めた。特に禁止行為となったBBQ利用を希望し来園されたお客様への適切な案内、近隣施設へのご案内及び、環境保全への取り組みについて丁寧に説明し理解を深める取り組みを行った。新たに資料を作成し、より分かりやすく説明した。 ・夏期川遊び利用における堰堤からの飛び込みに対し、安全確保に向けた飛び込み禁止看板設置及び利用者指導、注意喚起に努めた。 ・地元安曇野市及び松本市をはじめとする学校団体利用における環境学習では、河川、樹林等緑地の自然資源を最大限活用し、自然体験型環境教育の場としての利活用及び普及啓発に努め、質の高いプログラム提供を行った。新たにSDGsに対応したプログラムを実施した。 ・近隣宿泊施設と連携した取組みとして、学習目的の宿泊団体へ環境学習プログラムの提供を行った。 ・市民協働・地域連携を推進するため、定期的に「市民会議」を開催、市民と協働したイベント開催による利用促進や情報収集を実施したほか、緑地内での植物調査等のサポートも行った。さらに、地域とともに緑地を育むため、安曇野市が主管する「パークコミュニティ会議」に参加し、情報交換や連携イベントを行った。 ・安全、安心を第一に、心癒される緑地を提供するため、スタッフの挨拶をはじめ、利用者が気持ちよく過ごすことのできる環境づくりに努めた。お客様の安全確保のため、園内巡視をおこない、徹底した支障樹木、支障枝、枯損木の除去を行った。 ・笹刈り、落ち葉掃き、除草作業などは、障がい者活動を支援する地元NPO法人やシルバー人材センターと連携し、活動や労働の場の創出、地域社会活性化に貢献した。 ・長野県が推進する省エネルギー対策活動への参画として、「クールシェアスポット」へ登録した。同時に、本緑地をクールスポットとして紹介できたことで夏季の利用促進を図った。 ・建設事務所との連携によるツキノワグマ活動時期における利用者の安全確保を図った。ツキノワグマ目撃情報、フィールドサイン確認状況に応じて臨時閉園、利用制限区域の設定、笹刈等環境管理など迅速な対応を行った。 ・ツキノワグマ対策講習会及び普通救命講習会を国営アルプスあづみの公園管理センターと共同で開催し、隣接する施設との連携による取り組みを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協定書、仕様書及び年度計画書に基づき、施設の目的に沿った管理運営を適切に実施していた。 ・市民会議事務局として県と市民会議との調整を密に行い、円滑な管理運営をしていた。 ・平成27年度からのバーベキュー禁止措置について、緑地利用者へ丁寧な案内を心掛け、適切に対処していた。 ・安曇野市内のほとんどの小学校から環境学習の依頼を受けるなど、地元教育関係者からの評判も良く、施設の有効利用に寄与していた。 ・ツキノワグマ対応策として、国営公園と共同で講習会を開催するなど、利用者の安全・安心の確保に配慮して行動していた。 	A
平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや看板を通じて本緑地の利用方法やルールを正確に情報提供した。 ・イベント開催の際は受付時期を1ヶ月前とし、ホームページに掲載し、申し込み者の平等性を確保した。 ・山菜・きのこ採取及び昆虫採集目的の利用者へ環境保全の取り組みについて丁寧に説明を行い、後から来園される利用者にも配慮した公園利用案内を行った。 ・平等利用の観点から、利用者の声を幅広く収集することを目的とした「モバイルご意見箱」を継続して実施した。 ・愛犬家の園内利用マナー向上の取り組みとしてマナーアップ作戦でのチラシ、マナー袋配布並びにマナーボトル(水)の貸し出しを行った。 ・愛犬の無駄吠え、リード外しでの川遊び禁止の注意喚起を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催の際は、利用者に対する平等な利用確保に努めていた。 ・園内巡視を行う際は、利用者に対し親切・丁寧な案内を心掛け、心地よく緑地内を利用できるよう配慮していた。 ・愛犬家の園内利用マナー向上の取り組みを積極的に行っていた。 	A
利用者サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公式HPは随時更新を行い、園内の自然資源やイベント情報の告知及び旬情報提供に努めた。また、SNS(フェイスブック、ツイッター)を本格的に運用した。 ・イベント終了後、参加者アンケートを実施。利用者ニーズを把握し、管理運営へ反映するための判断材料とし、サービスの提供や改善に努めた。 ・利用満足度を図るためアンケート調査を実施。利用者のご意見を収集し管理運営に反映させた。 ・イベント開催においては、緑地内の自然資源、環境資源を最大限活用すべく企画内容を吟味し、参加者の満足度の高いイベントを実施した。参加者からの期待度の高いカタクリやおオルリ観察のイベントや、水生昆虫など普段では目にする事の少ないヤマネ等の生物の学習会、歴史文化に関する学習会など、緑地の資源を活用した企画内容とし、幅広いニーズに対応したイベントを実施した。 ・長野県が推進する信州山の日、SDGsプロジェクト、信州環境カレッジと連動したイベントを企画し実施した。 ・イベント募集に際しては、松本市、安曇野市の市政記者クラブを活用。毎回プレスリリースによりパブリシティによる募集記事、開催記事掲載に努めた(新聞掲載等51件)。また、近隣の図書館、公民館、宿泊施設、観光協会等へチラシを配布し、情報提供と参加促進に努めた。 ・当財団が共同体代表として維持管理を行う国営アルプスあづみの公園にてチラシを配布し情報提供と参加促進に努めた。 ・繁忙期には管理事務所スタッフ及び専門スタッフによる駐車場誘導を行ない円滑な利用環境創出に努めた。 ・長野県が推進するSDGsプロジェクトや信州環境カレッジへのプログラム登録を行い、周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公式ホームページによる情報の発信、プレスリリースや安曇野市広報への掲載など利用者に向けての情報発信に努めていた。 ・緑地利用者及びイベント参加者のアンケートからニーズの把握に努め、業務改善等に反映させていた。 ・緑地の自然資源を活用した企画を多く取り入れ、幅広いニーズに対応したイベントを開催し、多くの参加者から好評を得ていた。今後も自然体験型環境教育の場として利用者、参加者から大いに期待されている。 ・令和2年度は年度初め頃の新型コロナによるイベント中止などでイベント開催数を減少させたが、イベント再開後はソーシャルディスタンスに配慮した定員数、事前受付指先消毒・受付時検温を行うなどコロナ対策を行いクラスター元とならない対策を行い、継続してイベントが出来るよう努めてた。 	A

(様式2)

自主事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業では、市民会議活動で産出した「ヒノキ・サワラ」を木材として販売したほか、利用者ニーズのある自動販売機を設置した。収益は、市民活動における消耗品購入やノベルティグッズを制作し、市民活動や広報宣伝活動に還元した。 ・イベントでは、コケテラリウムづくりや竹の水鉄砲づくりを実施し、見どころとなっている「コケの道」の周知や竹林保全活動をしている市民団体との連携につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県、市民会議と協議しながら、緑地の保護、保全を目的としたボランティア活動を実施し、園内で発生した間伐材の売却益を市民会議活動支援費に充てると共に、イベントを開催する等の工夫が見られた。 ・以前より要望があった自動販売機を設置し、利用者のニーズに応えた。 	A
職員・管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員：5名、臨時職員：2名、計7名 ・繁忙期には臨時的に誘導警備員を配置し、体制を強化した。 ・「普通救命講習」修了者や「サービス接客検定」取得者を配置し、安全第一に利用者サービスを実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地の管理業務を行うために必要な知識と技術を持つ、経験豊富な職員が配置されていた。 ・繁忙期には臨時スタッフによる駐車場誘導を行なう等、的確な管理体制の確保に努めていた。 	A
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料収入31288千円。支出 31,288千円。指定管理収支においては、実施作業等への優先順位付により収支バランス良く効率的に管理運営ができた。 ・自主事業 収入164千円。支出164千円 公園利用者へ便益性及びサービスの向上を図るため自動販売機を設置した。市民会議の活動により間伐した木材の販売収入があった。また、コケテラリウムイベント参加費収入が伸びた。 ・自主事業収支においてはバランスよく効率的に活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で、緑地利用者へのサービス低下に繋がらないよう配慮し、適切に管理運営が行われていた。 	B
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の自然資源を活用したイベントや環境学習プログラムの実施を通じて、長野県の豊かな環境を啓発できた。 ・利用者アンケートなどからお客様に好評をいただいたように、限られた予算の中で、一定の水準を確保する指定管理業務が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地利用者及びイベント参加者からはアンケート調査により好評な評価が得られていることから、引き続き良好な管理運営をしていただきたい。 ・指定管理者により提出された収支状況等資料から、優れた管理運営がなされていると判断できる。 	A

<評価区分> A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
 B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
 C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
 D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項目	指定管理者	所管課
施設の管理運営の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・管理事務所閉所時間帯(職員不在時間帯)のトイレ等利用に関する安全管理、保安対策 ・管理事務所閉所時間帯(職員不在時間帯)のたき火、パーベキュー、ごみ片付け対策<長野県との協力により、利用方法の周知、マナーの向上が進んでいる。> ・公園内樹木の成長による、倒木・落枝の危険性の増大。(間伐の必要性が高まっている。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理事務所の閉所時間帯のトイレ利用案内等について、指定管理者とともに検討して行きたい。 ・指定管理者と協力し、利用者にマナー向上の協力を呼び掛けたい。(利用方法が周知され、マナーの向上が見られ、ごみ等の放置は減っている。) ・指定管理者と協議をしながら、小破修繕工事等により、緊急性の高い樹木は除去している。

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:令和2年 11月 20日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
(施設の目的に沿った管理運営) 1 市民との協働イベントなどが、管理ボランティアに発展するような取組みはできないのか。 2 安曇野市外の小学校からの学習も積極的に受け入れてほしい。	1市民協働の取組を広げるために、新たに安曇野市里山再生プロジェクトと連携した行事等を企画していきます。 2環境学習や体験学習への参加拡大のために、信州環境カレッジやSDGsプロジェクトなどの団体向けプログラムに登録し、広報拡大を図ります。	
(平等な利用の確保) 1 HPでの告知など利用者にわかりやすい取組みをしている。メールマガジンなども活用してはどうか。	1メールマガジンより双方向性の高いSNS(ツイッターやフェイスブック)を活用し、日々の自然情報やイベント報告を積極的に発信します。	
(利用者サービス向上の取組) 1 施設の利用を知らない人がまだ多いと思われるので、広報についてはさらに工夫の余地がある。 2 イベント告知のみならず、イベント実施の報告もHP等で周知できたらよい。	1信州環境カレッジやSDGsプロジェクト等長野県が推進する事業に積極的に参画し、広報周知を図ります。 2HP、SNS等を通じ、イベント実施報告や自然情報など公園の魅力を積極的に発信します。	
(自主事業) 1 利用者からの要望である飲料水(自動販売機)や苔玉の販売など良い取組みが行われている。引き続き施設の特性を活かした事業をして欲しい。 2 隣接する国営公園と協働したイベント実績もあるが、引き続き国営公園を含めた他施設との周遊性、回遊性を活かした事業を検討して欲しい。	1アンケート等を通じ、お客様のニーズを的確に把握し、サービス向上をはじめとした自主事業を推進します。 2安曇野市観光協会に入会するなど、近隣施設との連携を深め、周遊性を考慮した事業実施を図ります。	
(職員・管理体制) 1 管理計画に基づき研修が行われている。研修の実施状況について記録を残して欲しい。 2 管理方針について、職員全員で共有できる体制を整えて欲しい。	1、2指定管理業務が適正に履行できるよう職員一同資質向上に向け努力します。実施状況については参加者、状況写真等詳細に記録します。	1、2研修記録、職員共有体制について、指定管理者に指導、助言を行っていきます。
(収支状況) 1 収支内訳表と総勘定元帳に差異が生じているため、確認すること。	1総勘定元帳から収支報告書への転記ミスが原因であり、複数の職員によるダブルチェック体制をとり再発を防止します。	1収支報告等について、指定管理者に指導、監督を行っていきます。
(総合評価) 1 収支報告書については、記載数値と基となる書類と突合し正確に作成すること。	1基礎となる資料を適正に作成し、それに基づく報告書の正確な作成に努めます。	1収支報告等について、指定管理者に指導、監督を行っていきます。